

第2回飯綱町子育て世代支援施設建設検討委員会（平成30年12月20日開催）

・出席委員

小林千登世 山口智美 清水由佳 眞喜志亜矢子 増田祐美 松木春菜
太田光洋（長野県立大学健康発達学部こども学科長兼教授）
栗田喜美江（さみずっ子保育園長） 押鐘裕子（保健師）

・欠席委員

長崎夏美

・出席事務局員

桜井教育次長 若林子育て支援係長 横田保育士

開会 10:00

1. あいさつ

2. 太田教授 ご紹介

3. 建設候補予定地 現場見学

(1) 意見交換（ワークセンターに戻り）

(2) 太田教授より

4. 候補地の決定について

5. 報告事項

次回の検討委員会の日程について

6. その他

閉会 11:30

1. あいさつ

事務局：挨拶の言葉あり。本日は建設候補予定地の現場見学です。現場を見ていただきまして、意見交換をお願いします。本日長野県立大学の太田先生がお忙しいところお見えになっていただきました。太田先生は、子ども学科長、教授でいらっしゃいます。保育学、幼児教育学がご専門です。

太田教授：挨拶の言葉あり。私は子育て支援の仕事を25年やっています。大学勤務も北海道旭川、福岡北九州、千葉市川を経て長野に来まして、県立大の準備をして、この4月に開学しました。飯綱町で新しい子育て支援センターをつくるということですので、ぜひお手伝いさせていただきたいということで参りました。

3. 建設候補予定地 現場見学

事務局：これからバスで現地に行きます。検討資料を持参してください。

候補位置1 町民会館浴室部分（浴室解体、町民会館と接続）

候補位置2 町民会館と青年の家との間（切土整地、町民会館と接続）

候補位置3 マレットゴルフ場（進入道路、駐車場を新設）

候補位置4 チビッコ広場北側（遊具の移転）

（現場で4か所ごとの事業費及びメリット・デメリット、工事による影響等を説明）

(1) 意見交換（ワークセンターに戻り）

委員長：ご苦労さまでした。特に候補1番は工事の関係でも難しいという話ですが、2番の切り山のところは、これをまた土地をならしたりするということで難しい面があるということです。共通して1番も2番もそういう面もあるということです。3番はいいなと思いながらも、マレットゴルフ場みたいな感じになりましたので、4番という方向に行くことになるとと思いますが、皆さんその辺についてはいかがでしょうか。

太田教授：例えば、その1番と2番、3番はちょっと難しいと考えて、1番とか2番にしたほうがいいのかというメリットというのはどのようなことがあるのか、あるいは積極的に1番、2番にしたほうがいいのかあったら、考えたほうがいいと思うのですが。

委員：教育長さんが前回、現在の図書館の環境を整えていくことが大事という話をされていて、そのメリットを考えるなら1か2。4よりマシなのかと思って見ていました。図書館が同じ棟というか、靴を脱いだり履いたりしないで利用できるのも、メリットは大きいかと思えます。

太田教授：図書館で借りる本というのは、お母さんたち、それとも子どものためですか。例えば、子どもの本だったら支援センターの中に一部入れて、実際に見やすい配置にしていったほうがきっといい。

委員：今、町民会館内の図書館だと、1階にも小さいのがありますが、絵本も大人の本も同じ図書室で2階にあります。利用しやすくなるといいですね。

事務局：現在の図書館はご存じのとおり2階にあって、狭かったり、これから考えていきたい。もちろん支援センターの中にも幼児用図書、読み聞かせのスペースは置きたい。

太田教授：せっかく図書館があるなら、本の一部支援センターに持ち込んで季節ごとにか入れ替えて、貸し出しもできるシステムであれば使いやすい。

事務局：県立大学では、壁を有効利用して、壁に何冊も本が入ります。参考にしたいと思えます。

太田教授：廊下を全部本棚にしてしまうというのがありますが、壁に表紙が見えるように掲示すると子どもがすごく手に取りやすいし、壁に寄り掛かって本を出したりしています。町民会館の幼児図書を移動しない場合デメリットとはありますか。

委員：もともと子ども用にできている場所ではないので、使い勝手が悪いです。

委員：町民会館での絵本の利用は、子どもがいて、おじいちゃん、おばあちゃんがうれしそう。

委員：廊下で会うとうれしい。みんなで握手をしていくみたい。

太田教授：大事なことです。

委員：何かイベント行事が重なると使えないです。

太田教授：よく老人の施設と子どもの施設を一緒にするところもありますが、お互いにやることを干渉し合い、意外とうまくいっていないところもあります。だから少し離れていてもいいのかなという気もします。でも見えることはすごく大事なことで、4番はみんなここを出入りする人たちが子どもも見えるので、子どもとい

うのはやっぱり元気をくれます。そういう意味では、出入り口のところに子どもがいるスペースがあるというのは、意外といいかと思えます。消去法でいくと4番です。建てる位置もたぶんこれを上から見ると、南側に広く窓が取れるように全部建物がみんな同じ向きに建っています。だからそういう建て方、向きがたぶんそうなる、メインが南側に開いて日が入る造り。そこで遊んでいる子どもたちが見えたりするといい。おじいちゃん、おばあちゃんと交流するのは、これからの支援センターの企画・運営方法で十分に可能です。

委員長：保育園では祖父母参観日というときに交流します。いつでもどこでもウエルカムという感じではないですが。

委員：先日牟礼デイサービスセンターとの交流会を支援センターで企画してもらって参加しました。1時間ぐらいだったのですが、来てもらわなくてもこちらから出向く交流もいいと思う。結構皆さん喜んで、子どもたちも楽しそうだった。

太田教授：施設が一緒だと、スペースの区切り方も結構工夫しないと難しい。例えば大勢の子どもがいるイベントがあったときに、ある程度支援センターを開放できるようにするとか、例えば、ここまでは支援センターの園庭みたいにして柵でも何でもつくっておいて、こっちの半分のまだ使えるところも開放して全部使って遊ぶというのができると思うが、どんなふうに、安全面も含めてやるかというのが、実際やっていくときに考えなくては。アスレチックみたいなのも中学生とか小学生がやっているのがあると、子どもたちもそれを見て、小さい子たちはまだ同じことはできないが、何かそれに準じたもの、周りの大きい子がモデルになるもの、きっかけになるということはありません。

委員長：それは、一般的にはその支援センターで遊ぶというスペースと、外の一般の遊具は分けておかないといけないということですか、管理上の問題ですか。

太田教授：分けなくてもいい。これは明らかに危ないぞというところがあれば別。支援センターは3歳未満の子が多い。やっぱり砂と土と水は要ります。砂場も必要だし、水も使えたほうがいい。土も子どもというのは、砂場で砂遊びをするのもいいですが、例えば泥団子をつくる時はこっちの固い土がいいとか言って遊ぶので、砂場には普通の砂があって、こっちの山はちょっと粘土質の土があるとか、そういうふうになっていると、すごく楽しく遊べる。小さい子というのは、体のバランスなどは、やっぱり斜面やでこぼこで育つところがあります。それからちょっとした築山みたいなのをつくって、赤ちゃんだったらはって登って行って、頭から下りられない、滑り台もそうですが、前向きに下りられない。後ろから、お尻か足から滑るといふか、腹ばいになって滑っていくといふか。山もだから最初そうやって登ったり下りたりして、その後自分で登って滑り台みたいに体を前にして滑って、足が下になって下りていくというのは、やっぱり平たんな環境だけだと育たないので、そういうちょっと山をつくったり、そういうのを禁止しないで、赤ちゃんのときからやっていると自分の体の感覚が育つので、けがもしないし、ちゃんとできるようになってくるというのがあります。あと、冬はここだったら雪だからソリとか、お米を入れる袋などを持ってきてあれに乗っかって滑るといふのは楽しいのでいいと思えます。あと、

中の環境なども皆さんが使っていて、僕も教えてほしいのは、こんなものがあつたらいいとか、こんなふうに使えたらいいというのがあればいいかと思えます。例えば変な話ですが、お茶は自分で勝手に入れて飲めるとか、そういうのは大事だと思うし、いつもセンターの職員がいないと使えないのではなくて、自分たちである程度自由に使える環境というのがいいかと思う。遊ぶ子どもの環境でも、こんなものが今やっているけれども、もっとこんなものがあつたらいいとか、遊具でもいいですし、さっき言ったみたいに環境でもいいですが、何か使っていてありませんか。もっとこんなものがあつたらいいなとか。

委員：あつたらいいなというよりも、「登っちゃ駄目」、「走っちゃ駄目」とか言わなくていい環境になつたらいいなという。

委員：ファンヒーターだからその上に登りたくなるけれども、危ないし、触っちゃ駄目、登っちゃ駄目はいつも言わなきゃいけない。そういうのを言わなくていい環境になるといいと思います。やっちゃ駄目が多いと、親も周りもストレスになる。

委員：親が楽な環境だと来てくれる人も増えると思う。

太田教授：ある程度子どもが自由に遊べるというか、勝手に遊んでいても安全という、少し離れられるといいですね。

委員：小布施のハイウェイオアシスによく遊びに行きますが、あれ駄目、これ駄目と言った覚えがあまりない。広さもそうですが、築山もあつたり、木もたくさん植わっていて、どんぐりを拾ったり。本当に開放的で、結構利用者も多いし年齢層もいろいろですが、危険な目にも遭ったこともない。

委員：小さい子から大きい子まで楽しめるものがいい。

委員長：消去法でいくと、皆さん4番ということによろしいですか。今回決めたほうがいいですね。

4. 候補地の決定について

事務局：検討委員会の候補地ということでご決定ください。

委員長：町民会館との連携管理の少しのデメリットがあるが、そのデメリットはどんなものかということで、図書館関係が挙げられましたが、それは支援センターのほうに小さな図書館、またはそういう壁やコーナーを使った形で本に親しませる環境をつくるという案が出てきました。他に、図書館以外に町民会館との連携で何か不具合なところはありますか。例えば、けがをしたときは、自分たちが電話で救急車を呼ぶ体制です。また、行事やイベントについても事前に打ち合わせをすれば大丈夫ですし、町民会館の連携管理はできなくても、解決策はある。ということになると、改めまして候補地の決定は4番によろしいですか。

委員：一同承認

事務局：ありがとうございます。

委員長：太田先生がおっしゃられたように、こういうのがあつたらいいというようなものがあつたらということで、築山はちょっと欲しいということで。とても大事だと思ったのが、お母さんたちが少し離れていても、安心して子どもたちが遊んでいられる空間があるといいということで出させていただきましたが、他にももしお母さんたちで希望があつたらどうぞ。

委員：小学生が遊ぶスペースとある程度分けたほうが良いという話もありましたが、支援センターは小学生が利用できない形にするのですか。結構小布施のエンゼルランドなどは、何か前に頂いた資料は、0歳から小学生、中学生とあったので。

事務局：放課後の児童クラブの機能もある施設ですので、子育て支援センターの親子が帰ったあとに下校後の児童が利用します。当町は、あくまでも子育て支援センターとワークセンターということです。放課後児童の利用を考えた場合は、低学年のファミリーサポートセンター事業での提供会員が利用児を預かる場合が考えられます。小学生が大勢で来て自由に過ごしていくという施設と位置付けるには、難しいと思います。施設の規模、送迎の問題、各学校区に設置された児童クラブとの兼ね合いがあり、かなり議論してからでないといけないと困難です。この施設は、主に小学校に上がる前までの子どもさんの施設という位置づけです。

事務局：飯山市も学童保育は同じ建物でした。

委員：小学生も一緒に過ごせるとありがたいです。

事務局：絶対駄目とは言えないですが、例えば、土日に限定して開放するなど、徐々に、開設するまでにご意見を頂きながら決めていければと思います。

太田教授：土日に使うなら、結構幅が開きます。ある程度環境をアグレッシブに変えられるようなことも考えられます。

委員：冬は寒いし雪が積ると遊具で遊べないので、保育園みたいに園開放のようなのがあればいいですね。

委員：できればお兄ちゃんたちが小さい子の面倒を見ながら一緒に遊んでくれればいいですね。

委員：お母さんたちは見守っているだけ。

事務局：そうすると、お母さんたちのコミュニケーションも高まりますね。

太田教授：お茶を飲むスペースもほしい。

委員：そうすると結構な広いスペースが欲しいですが、ワークセンターと合体だと場所が足りるのでしょうか。雪が降れば外の遊具で遊べないし、中でじっとしているわけにもいかないから、やはりホール的な場所も欲しい。となると、なおのこと2階建てだけで場所が取れるのかとか、その上、小学生も入ってきたらどうやって分けるのという話になってきます。

委員長：空いていれば、町民会館のホールを利用できます。この施設にミニ体育館や遊戯室などの広いホールをつくるとなると、スペース的には難しくなるでしょう。

事務局：広くなくても多目的な遊戯室のような、イメージとしては、遊戯室の中でお子さんとお母さんが遊んだり、一角ではご飯を食べたり、お茶を飲んだり、あるいは本当に小さいお子さんの遊び場だとか、部屋で仕切るのではなくて、スペース分けを考えています。

委員長：ワークセンターは、2階に決まっているのですか。

事務局：セミナーやお仕事は、子どもスペースと分離したほうが良いと思います。

委員：仕事中に声とか聞こえると気になります。泣き声なんか聞けばなおさらです。

委員：今のワークセンターは、下の休憩室で、お母さんたちがご飯を食べていて、ちょっと出てきたときにお母さんを見ちゃって泣いちゃうことがあるので、託児とお母さ

んの休憩場所も、できたら離れたほうがいいと思います。

事務局：子どもをガラス越しに見ながらお仕事をするコワーキングスペースもあります。それぞれ一長一短があると思います。

委員長：例えばお母さんは見えるけれども、向こうからは見えないとか。

事務局：保育士にとっては監視されている印象を持つかもしれません。

太田教授：やはり、ワークセンターの託児と子育て支援センターに来る親子は、基本的に分ける形になるのでしょうか。

委員：分けたほうがいいのでは。

委員：私も他のお母さんに聞いてみたら、ワークセンターで託児している子たちが一緒に遊ぶのは、それはみんなの了承で、同じスペースで遊んでその子たちは保育士さんが見ているというのはありかもしれないけれども、ご飯を食べたりする託児の拠点の部屋がないとおかしくなっちゃうのではないかと言うお母さんもいます。確かに、ここで預かります、ここで遊びには行く、けれども、ここに戻ってご飯を食べてここでお昼寝をするというスペースは、支援センターと一緒にだとちょっと嫌かなというお母さんもいたので。そうすると、またスペースが欲しくなってしまいます。

事務局：仕切れる工夫が必要です。

太田教授：支援センターに来ている人たちは、基本的に親子で来ますよね。それで親がいるところで子どもが遊んでいます、そのワークセンターの託児の子どもたちは、支援センターに遊びに来てても親はいない。しかし、あまり子どもは気にしないと思いますが、気になる人はいるかもしれません。2階にお母さんがいて、託児もやっぱり2階でしょうか。

事務局：例えば総2階にした場合に、そっくり2階はワークセンターでということではないと思うので、ワークセンターもあり、その拠点となるご飯を食べたり、お昼寝したりするところもあり、ちょっとした会議室もあり、というレイアウトを考えれば、遊びは下で遊んでもらって、食事とかは2階へ上がって行って、子どもさんは保育士に。それから親御さんとは顔を合わせない感じでできれば、使えるかと思います。1階でそのスペースを取ってしまうと、子育て支援センターのスペースが狭くなっちゃうので、できるだけ2階も活用しながらやればいいのかと考えます。

委員：保育士さんが何人体制でやるのか分からないが、最近ワークセンターも利用者が増えてきて、例えば子どもが10人いた場合、少し安全面が気になります。あと、外で遊ばせた場合、ちょっと囲っていないと2人なり3人で見たときに、10人の子がどう動くのかというのが危ないと思います。

委員：ワークセンターの託児は、予約制ではないですね。その日に何人来るか分からない。

委員：お母さんたちが「一緒に仕事をしよう」という感じでまとまったときがあったり、締め日と一緒にだったり、そういうときは結構集中して来ます。

委員：事前に分かっていたら保育士を増やすというのもできるかもしれない。

事務局：予約制にしていきたいというのは考えています。ある程度予約で何人というのが事前に分かれば対応できます。

委員：私は逆に予約じゃないからすごく使いやすかった。

委員：でも「どうですか」と連絡してもらって、「託児が何人なので、余裕があるので大丈夫ですよ」という形で連絡できるかと思います。

事務局：飯綱町の子育てモバイル『すこやかいいづなナビ』をスマホに入れていらっしゃいますか。ぜひダウンロードしてみてください。今後このアプリに施設予約機能を追加できないか検討してまいります。

委員長：予防接種のスケジュール管理が簡単で「来てください」とお知らせが入ります。忘れないです。

委員：一人だとまだ自分で自己管理できている方が多いのですが、2番目、3番目となってくるともう、どれがどれだかみたいなき感じになっている方が多いので、お一人ずつスケジュールが見られるので便利です。

太田教授：基本的に子どもが生活するスペースが2階にあると結構保育も大変です。ワークセンターに来た子どもたちを預かって、上から下に降ろすだけでも大変という話がありましたが、下の子どもが直に使うスペースを少し多く取って、上は総二階ではなくてちょっと狭くてもというのも考えたほうがいいのかということと、ここの600㎡の延べ床面積は動かせるものなのかどうなのかということも、少しどうしたらいいのかということところです。

事務局：現段階では、500から600程度という感じです。総二階ではなくて一部2階建てにするのか、設計の関係になりますが、来年4月以降設計の業者を決める入札を予定しています。設計業者が決まれば担当者にご覧の委員会に入ってもらって、皆さんの意見をくみ取っていくスタイル進行してまいります。

太田教授：あと、屋上とか総二階じゃなければなおなんですが、1階の上をベランダで使えるとか、屋上がもし使えるなら、屋上も何か季節的にこういう使い方ができるようなものがあれば、外よりは管理がしやすいということもあるので。

委員：雪の問題は。

委員：屋上にかまくらは。

太田教授：少し考えてもいいかと思います。

5. 報告事項

次回の検討委員会の日程について

事務局：検討委員会として建設予定箇所4番とお決めいただきましたので、準備を進めてまいります。今回は、国が進めている子育て世代の包括支援機能を新しい支援センターにも持たせますが、その概要をお示し先進事例を詳しくご説明します。次回までに、事務局に調べておいてほしい事項等がありましたらリクエストしてください。時期ですが、1月下旬か2月上旬ぐらいに予定しておりますが、先生にも日程を確認させていただいて、皆さんが都合のいいときに、開催したいと思っております。

太田教授：みなさんから子育て論について何か話をしてくださいということ言われていますが、僕は皆さんのことを分からないまま勝手に自分の持論を話してもしようがないので、今日は皆さんの話を聞けたらと思って来たので、十分分かりました。ありがとうございました。

事務局：先生におかれましては次回よろしく申し上げます。

一同：ありがとうございました。
閉会